

令和5年度 第3回播磨町地域公共交通活性化協議会 議事概要

日 時	令和6年1月18日(木) 10時00分～11時20分
場 所	播磨町役場 BC会議室
出席者	<p>【委員】</p> <p>中島 直實(播磨町自治会 南部コミュニティセンター区代表) 福壽 実(播磨町自治会 西部コミュニティセンター区代表) 伊部 豊昭(播磨町自治会 野添コミュニティセンター区代表) 安川 尚希(播磨町社会福祉協議会 生活支援コーディネーター) 富澤 真(播磨町新島連絡協議会 交通部会長) 米田 隆敏(播磨町商工会 理事) 梅澤 宏行((一社)兵庫県タクシー協会東播支部) 日野 真輔(神姫バス(株)加古川営業所 所長) 田中 京子(代理)(西日本旅客鉄道(株)近畿統括本部兵庫支社 主任) 伊藤 光一(山陽電気鉄道(株)鉄道事業本部 リーダー) 平野 祐次(播磨町 副町長) 中西 克之(国土交通省神戸運輸監理部兵庫陸運部 企画調整官) 坂上 哲也(播磨町都市基盤部 部長) 寺谷 智哉(兵庫県加古川警察署交通第一課 課長) 北川 博巳(近畿大学総合社会学部総合社会学科環境・まちづくり系専攻 准教授)</p> <p>【オブザーバー】</p> <p>新田 博史(兵庫県土木部交通政策課 副課長兼地域交通班長) 佐伯 亮太(播磨町まちづくりアドバイザー)</p> <p>【事務局】</p> <p>松本 弘毅(企画総務部長) 筒井 和秀(企画課長) 野中 照代(企画課公共交通活性化担当課長) 丸井 直樹(企画課政策調整係主査)</p> <p>【町公共交通担当】</p> <p>安立 圭一(都市計画課長) 芦澤 千春(都市計画課計画調整係長) 田中 孝太(都市計画課計画調整係主事)</p>
欠席者	<p>尾崎 敏(播磨町自治会 東部コミュニティセンター区代表) 新屋敷 昭一((公社)兵庫県バス協会 専務理事) 山本 記義(神姫バス 労働組合 組織部長) 藤澤 伸和(兵庫県東播磨県民局加古川土木事務所 所長補佐)</p>
議事次第	<p>1. 開会 2. あいさつ 3. 協議事項</p>

(1) 播磨町地域公共交通計画（素案）について

4. その他

5. 閉会

1. 開会

2. あいさつ

(会長)

今回で3回目の協議会開催になる。今年度の公共交通活性化協議会の目的は地域公共交通計画を策定することであり、アンケートやワークショップを行ったことで、まちの理想の姿が見えてきている。今日は、公共交通をどうしていくべきかという客観的な議論を期待している。

大学で研究の指導で地域経済分析をしていた際、神戸市や明石市の転出先として播磨町が選ばれることが多い。まちの姿をみていると、若い人たちが住みやすさを感じて転入しているという感覚がある。高齢化し公共交通の利用者数も少なく大変という反面と、これからまちに色んな人が増えることを公共交通とどう結びつけるかという話もできればいいと思う。

3. 協議事項

(事務局)

資料1 「播磨町地域公共交通計画（素案）」説明

(会長)

今日は主にこの素案について質疑応答を重ねて、修正があれば直していくという形にしたい。

まず、目次を見ると、1章が計画の概要でこの計画の位置付けを明示し、2章では今年度行った調査活動の結果を報告している。地理情報のデータや現状のパーソントリップ、人の動きをとらえた情報など、播磨町の現状を前半に、後半は調査結果を書いている。3章は、2章の結果を踏まえた現状の問題点を書いている。それに基づいて4章以降が計画のメニューになる。

基本方針や計画の目標、公共交通の考え方、スローガンがあり、このスローガンを基に施策を進めていく。計画の目標は3つあることを明示し、その3つに関する施策を書いているのが5章以降である。公共交通計画を策定する際は、必ず目標値を書かなければいけない。計画の達成状況の評価として6章に書いている。意外と難しいが、現状維持を目標に設定している。策定後は、各事業者がそれぞれの目標に向かって取り組んでいくという流れになる。今日は役割分担や施策の内容を確認し、修正した上でパブリックコメントに出す流れである。まずは、どこでもいいので気づいたところがあればお聞きしたいと思う。

(委員)

P67の表のスケジュールが、ほとんど調査・検討・実施になっている。3つを分けてスケジュールを立てることはできないのか。調査を1年半、検討を1年半、実施が1、2年のような分け方ができないのか。

(会長)

年度で分かれているものもあるが、ほとんどが「調査・検討・実施」としていいのかというご指摘をいただいた。

(事務局)

実際にすでにやっている分に関しては実施になるが、引き続き、新たにできることがないか検討することもある。検討も続けながら実施もするというので、このような見せ方になっている。既に実施している取組など分けられる部分については再度見直し、修正する。

(会長)

実施している部分は書いた方がいい。見る人は明確化しないまま終わるのではないかという不安が出てくると考えられるため、書き方を検討いただければと思う。

今回は調査を通じて色々なことが分かったほか、ワークショップも学生や若者の意見が得られ有意義であった。パーソントリップ調査の結果を見ると、播磨町はバスだけに乗る人が少なく 0%であった。おそらくほとんどが長い距離の移動は車か電車となる。そうすると、端末の交通としてバスを使っている人は一定数いるが、バスだけに乗っている人はほとんどいないことがデータ上にも出ており、明石市、加古川市、稲美町と違う播磨町の特長である。特に山陽電鉄、JR など、鉄道の活性化も含めてバスと鉄道の連携などが重要な位置づけになると思う。これから乗務員も減っていく中で減便される可能性もある。公共交通の活性化のために、もっと乗ってもらうにはどうすればいいかを特出ししても良いと思う。これに関する構成や、文言の変更など、ご意見いただきたい。ワークショップをしたアドバイザーから感想いただきたい。

(オブザーバー)

P51 の図 4-3 の公共交通のネットワークのイメージだが、町内で暮らしている生活の感覚からすると山陽電鉄沿線は播磨町の皆さんは必ずしも播磨町駅を使っていない。別府駅や西二見駅を使うこともあるが、この図だと播磨町駅に集めるようなイメージに見える。地域内交通が破線で播磨町駅と土山駅に結ばれていくというイメージを町民が見たときに違和感がないか気になった。播磨町の計画としてこれでいいと思う一方、生活の実態からするともう少し広域ではないかと思う。

(会長)

実感に伴う感想が違うところもあると思う。事務局から返答はあるか。

(事務局)

地域内交通ということで幹線にどう結び付けるか、その駅が別府駅、西二見駅ということはありますが、全体の計画でのスタートとしては、町内で青い矢印を地域内交通として進めていきたい。その中で、要望や地域の方の声を聞き、加古川方面に広げるとなれば、この線が加古川に伸びることも考えられる。

(会長)

そこが地勢上非常に難しい。将来の交通ネットワークはこうあるべきだ、と書くこともとても大事

で、播磨町の人は播磨町の駅を使ってくださいという姿勢になれば、活性化の施策などがいろいろ出てくると思う。そういうことを考えた施策を今回打って出ている。副会長、気づいたことはあるか。

(副会長)

ここの課題はまさにラストワンマイル問題である。宅配便で営業所までは来るが、そこから先のそれぞれの家に配達することに苦労しているというニュースと同じで、まさにそれが表現された資料だと思う。地域内交通は、新たな交通システムやタクシー等の運行による、補完的な公共交通サービスの提供をめざすとあるが、これさえできれば、ハブに人が集まる。ハブ間は基幹の交通であるバスが運びことで利用者も増え、ここが公共交通活性化の起点になると感じている。全体的にまとまっており腑に落ちる資料となっている。地域内交通の新しいシステムは、それぞれの役場がトライしていると思うが、実現のために取り組んでいくことが大事だと思う。

(会長)

まちとしてこうあるべきという内容が述べられている。分散して他の駅に行くより、播磨町駅中心に人が集まり、そこから鉄道に乗ってどこかへ行くような社会観を作り出していくのが重要と思う。もちろん播磨町駅や役場も含めた地区のイメージ作りやまちづくりなども入ってくるが、そこまでは書ききれないことは重々承知している。土山駅もショッピングセンターができてから風景が変わったので、まちの開発要素と公共交通から始めるまちづくりを記載する考えもある。ただし、移動のしやすさが生み出すまちの賑わいと書いているので、よく考えられていると思う。ここにいるメンバー間ではそういうところも含めた公共交通計画であるということの説明できるように意識統一を図っておいたほうがいい。

(委員)

先ほどの地図を見ながら、私は駅ではなく、地域の町内巡りをしたいと思った。学校間や孫たちの運動会に行く、行事に参加するなど、町内循環型の公共交通が欲しいと思う。

(会長)

こちらは地域内交通になる。

(委員)

野添地区は播磨町の人口の1/3が集まっていると認識しており、高齢者も多い。高齢者のお宅へ孤独死を防ぐために声掛け運動をしているが、殻に閉じこもる方が多く、地域で活動の話をしてもらえない。コミセンで防災、防犯の話もしたが、住んでいる人の2/3は理解していない。住民が動いてくれないと絵に描いた餅になってしまうので、住民の理解を得られるよう、話をしながらやっていきたい。

(会長)

ヘルスプロモーションの話もあるが、公共交通もプロモーション活動で乗ってもらおうという意識情勢や改革が必要である。

(委員)

P53に各主体の役割が書かれており、その中に住民も書かれているので、一般の住民の方がこの計画書を見たときや、向こう5年間の中で地域公共交通活性化のために自分に何ができるのかということや住民の皆さんにわかってもらい、何を心がけるべきなのかを伝える必要がある。今後、検討や実施、ワークショップなどが5年間の中で出てくるかもしれないが、そういったところへの参加やバス等の利用に関する情報を発信していくのも大事だと思う。

(会長)

施策メニューとして、情報の発信方法が欲しいところである。マップを作るのも良いが、今どきの方法もなにかあればいい。

(委員)

資料を拝見し、非常に良くまとまっているという感想である。現状を維持するのも難しいと分かった。その中で、この計画の実現可能性がどうなのかと思った。事業者の支援、出資活動などお金が必要になる。次の段階かもしれないが、計画の具体性を持たせるためにお金の面の計画も入れれば、実現の可能性が高く、具体性を持って説得力が生まれると思う。お金の使い方の検証もすれば、理解も得られると感じた。

(会長)

播磨町の居住者側の視点から意見をもらったが、事務局側として反映できるところはあるか。

(事務局)

住民の皆さんにこの計画で何をするのか、町の公共交通がめざす方向性が伝わらないと、行政と交通事業者だけが頑張るという今までの構図と変わらなくなるので、プロモーション活動はこれまで以上に積極的にしていく必要があると感じている。

(会長)

具体的にはモビリティマネジメントに書いているあたりが該当するというので理解した。事業者側から見てこの計画について確認をしておきたい。

(委員)

交通空白地域とあるが、播磨町自体が交通弱者を除いたら空白地域ではないと思う。車のない人がすべて交通弱者になると、地域では交通機関が必要になると思うが、播磨町は交通弱者のみで十分ではないかと思う。

(会長)

一般的な定義ではこのような考え方である。

(員)

P39の公共交通を利用できない実態についてというアンケートだが、バス停まで歩くことができない

い、バス停で一定時間待つのが困難という方が多い。先ほどお話しがあったように、バスは移動距離が2kmを超えないと乗らない。播磨町は非常にコンパクトにまとまっており、このアンケートの結果から、駅への利用が一番多いが、ほとんどの方が駅まで2km圏内にいるのでバスは乗らないのではないかと思う。公共交通として、空白地域が空白と言えるのかも今の意見と同意だが、活性化していくためにどうすべきか、駅につなぐということは、駅を利用するある程度元気な方なので、自転車等、他の交通手段を使うと思う。これから高齢化が進み、自分で動きにくくなった人が路線バスを使いやすいような形で構築しなければいけないと感じている。また、P54の広域基幹交通について、単独での路線維持が困難になっている。今ある4路線もどこまで維持できるか、黒字の路線は1つもないので、その点も踏まえ地域の方だけでなく社会全体で理解を深め、国も含めて公共交通のあり方というのを理解しなければ今後の路線維持は難しい。このような形で計画に記載していただいたことは、皆さんに理解していただけるきっかけになると思う。この辺も含め、関係機関と積極的な協議をしていきたい。

(会長)

特に播磨町の特徴はP54の広域幹線交通にバスや鉄道があることである。広域幹線交通を維持するには乗ってもらう必要がある。

(委員)

計画の中に鉄道の利用促進も組み込んでいただきありがたい。資料の中で2点質問がある。まずP65の定期券の購入助成について検討されるとある。この中で対象となるのは、通学定期のことか。また、通学については種類として高校生以上の通学、中学生、高校生の通学の定期券もあるが、現時点でその辺りの構想の詳しいお話があれば教えていただきたい。

(事務局)

現在、具体的にどこを対象にしてというところは絞っていない。町内の高校生がどれくらいバスや鉄道を利用しているのか、詳細はまだ調べきれておらず、要望が高ければ検討していきたいという段階である。

(委員)

P69、評価指標2で鉄道の乗車人員をキープする、またはそれ以上ということで記載いただいている。町内には土山駅、播磨町駅の2駅がある。2駅の合計値で目標設定をされるという理解でいいか。

(事務局)

その通りである。

(会長)

何か新しくやろうという時に出てくる事業の施策メニューは具体的にはどこになるのか。国交省の事業評価をしなければならないので、施策の位置付けが必要だと思う。

(事務局)

P65の施策8のところ、文章中に通学での利用促進や高齢者の外出機会増進を図るために定期券の購入助成等についても検討します、と書いている。

(会長)

播磨町では自転車に乗る人が多いため、定期券の購入助成のやり方は慎重に考えた方がよい。

(委員)

播磨町の公共交通ネットワークについて、播磨町駅をめざした矢印を書いているが、実際調査の結果では、山陽電鉄を利用した方は徒歩で帰る人が多いので、播磨町駅というよりは、役場や公共施設に行く人のニーズがあるといえる。ネットワークには交通機関だけでなく公共施設、病院、商業施設などの目的地をネットワークに書くと実感に伴って分かりやすいと思う。逆に鉄道事業者としては、播磨町駅から山陽電鉄のお得な乗車券を使っていただくと、例えば土山駅からJRで行くのと同様なサービス水準を受けられるということをアピールしていかないといけないと考えている。

(会長)

最寄り駅が西二見の方が近い人も一定数いる。町としては大事な所なので、このことも加味してネットワークを作っていけるといい。

(委員)

新たな交通システムで、停留所等を設定する場合もあると思うが、そういった際に利用者の方の交通安全の面から、警察としても連携していきたいと考えているので、早めの情報共有をお願いしたい。

(会長)

今後5年間どのような形でという話も含めて、情報共有したいと思う。

(委員)

5年間で計画を策定され、毎年、取り組みに対して自己評価をしていただき、国の方に届けていただくというルールになっている。評価といっても、取り組んだ結果となるので、地域公共交通計画を作成してゴールではない。ここからスタートとなり、皆様に地域公共交通計画の方向性に向かって取り組んでいただく。知らない方がいるとスタートを切ることも困難となるので、町から住民にアナウンスしていき、皆様が理解したうえでこの方向性に向かって取り組み、その結果を評価していくということになる。そういった取り組みから、にぎわいのあるまちをつくっていただきたいと思っている。

(会長)

事業者、住民の方からお話しいただいた。事務局いかがか。

(事務局)

路線バスを現状維持するだけでも大変だという事業者の現状がある一方、将来的に公共交通を利用するかもしれないという人が一定数いることを踏まえ、今ある公共交通は維持していくという計画に位置付けている。また、各調査の結果を見ると、町内だけで用事が完結している人が少ないことから、町内だけを巡回する交通システムに今すぐ取り組むのは難しいと感じており、近隣市町とのネットワーク構築が必要だと考える。こういった公共交通を取り巻く現状などを住民の皆様にご理解いただき、今ある鉄道、バス、タクシーをいかに維持していくかという方向性で進んでいきたい。

町主催のイベント時には公共交通利用促進ブースを出店しようと、事業者の皆様と検討を進めているところである。

行政、交通事業者、住民の皆様と協力してこの計画を進めていき、計画目標を達成できるように取り組んでいきたい。

(オブザーバー)

計画を作った後、実行していく中で実際に今は車があるが、将来は公共交通に乗るという方は多いと思う。パブリックコメントやモビリティマネジメントなどの取り組みをする中で、住民の方が乗って残すという意識付けも行政から働きかけをお願いできたらと思う。

(委員)

都市基盤部では主に都市計画、道路等のインフラの維持などを行っているが、一番課題となっているのが、人口減少への対応である。これまでに整備したインフラをいかに維持していくか、また、今後のインフラ整備をどうしていくかというところで、人口減少が課題となっている。今回の計画でも示しているが、まずは今ある基幹交通を維持していくこと、そして一番の課題は、地域内の交通をどう考えていくかというところだと思う。現状でも高齢者へのタクシー券の交付や福祉タクシー利用券の交付といった事業も行っているが、今後新たな交通システムをどういう風に導入していくかをこれから一番議論していくところかと思うので、また皆様のご意見をいただいて検討していきたい。

(委員)

先ほど言われたように計画はゴールではなく、いろいろなことを始めていく一歩だと思う。真摯に受け止め、住民とともに施策を展開していくことが、委員の皆様とこの計画を作っていただいた方からのメッセージだと思っている。先日、町では管理職の参集訓練をした。その想定が、公共交通機関がすべてストップしてしまったという形での訓練で、いつも利用している山陽電鉄が止まったという想定で、自家用車で出勤した。普段は20数分で通勤するところが、渋滞に巻き込まれ1時間半かかった。そこに公共交通機関があるということの安心感、普段どれだけ恩恵を被っていたのかということに改めて感じる訓練となった。この協議会に参加させていただき、いろいろな機会に路線バスなどを利用させていただいたが、やはり公共交通機関がそこにある、というのが一番重要なのではないかと身をもって感じた。今は自動車を運転される方がたくさんいるかもしれないが、そういった方が公共交通機関を利用できるという安心感が非常に重要ではないかと認識しながら、行政がいろいろな事業を展開していくためには、理念、考え、根拠が必要になってくる。今回の計画がその大きな礎ではないかと思う。これを基にいろいろな施策を展開していきたいと考えているので、今後ともそれぞれの立場でのご協力をお願いしたい。

(会長)

理念、考え方、根拠、この3つは大事な部分になってくる。これから、計画、検討、実施、そしてまた計画、検討、実施、が続いていくのを、根拠を持ってやっていくということで、お知りおきいただければと思う。今日言っていたご意見を基に検討し、反映出来るところは反映してほしい。その結果を基にパブリックコメントにかける。2月1日から22日まで実施するので、できれば関係者の皆さんにお披露目いただけるとありがたい。それをもって修正し、次回第4回の協議会で提示され、承認という形になる。

その他にいくつか資料もいただいている。兵庫県、事業者からも情報があると思うので、情報提供をお願いしたい。

4. その他

(オブザーバー)

今回の計画の中に公共交通の乗務員の確保対策が盛り込まれていたが、参考として、バス・タクシーの運転手確保に向けた最近の取り組みを取りまとめている。公共交通はコロナ禍によるライフスタイルの変化など公共交通事業者を取り巻く状況が厳しい。さらに2024年の労働時間規制の見直しなどもあり、運転手の人材の確保も課題になっている。全国的にも、バスであれば大阪の金剛バスのように廃線に持ち込んだ事例などもでてきており、県内でも多くの減便等が出てきている。

今年度の取組として1点目が、バス運転手の魅力発信で、運転手確保の入口であり裾野を広げる取り組みとして考えている。県のバス協会と共同で、運転手確保に向けた啓発ポスターを今年度作成した。兵庫県バス協会からの要請を受け、県はデザインや企画を担当した。まちの小さな日常を乗せて今日も走る、というキャッチフレーズで、バスの運転手が地域に欠かせない存在、移動手段の確保に欠かせない存在ということで、やわらかいイメージでバスの運転手のやりがいや魅力が伝わるようにポスターを作成している。年度内にはお配りするので、住民の方や利用者の方に見えるところで掲示の協力をお願いしたい。

2点目が、サンテレビで地域公共交通をテーマに、神姫バス㈱の運転体験会など、バスの運転手のイメージが上がるようなユニークな取り組み紹介をする。当日は19歳から50代まで6名の一般参加者がいた。皆さん試乗がすごくうまく、抵抗なく運転を楽しんでいた。バス運転手は免許もいるし、ハードルが高いのではないかと、というところを払拭できるような内容になっているので、ぜひご覧いただけたらと思う。

もう1つは、地域公共交通事業者の人材確保支援で国が補正予算を実施しているが、県の方でも人材確保に取り組むバス・タクシー事業者の二種免許取得費用や年齢要件緩和の特例講習の受講費の一部を支援する事業を立ち上げようと調整している。国が1/2補助をしているので、残りの1/2を県が補助するような仕組みを検討中である。確定したら各市町、事業者には情報提供する。参考までに下に県内の市町や団体の取組ということで、県バス協会では今年度はじめてバス運転手を対象にした合同説明会を開催し、12社で来場者55人と若い方や、他業種の方など幅広い参加を得られた。それ以外の2点につきましても県内の各市町の主な取組ということで、丹波篠山市だと、地域公共交通ドライバーの確保奨励金ということで移住施策と組み合わせた形で、市内の居住者で市内の営業所に配属された方を対象に補助金を出すということで、バスであれば15万、タクシーであれば10万といった奨励金を今年度から立ち上げ確保に取り組んでいる。引き続き情報については共有する。県としても運転

手の確保は、持続可能な公共交通の維持に向けて必要で、支援を取り組むので、こういったものを目にする機会があれば、広く情報を共有していただければと思う。

(会長)

役場にもポスターが来ると思うのでしっかり掲示をお願いしたい。

(委員)

弊社でも人材の確保は非常に力を割いており、人材確保部門の人数を倍に増やして、さまざまなPRをしている。会社のスタンスとして、地域の足を守るというところを最大の軸に置いており、赤字であっても、補助金等をいただきながら確保していきたいとやっている。なかなか大幅に増えるという状況にはなっていないが、奏功してきたところも若干見えてきた。加古川市の事例だが、消防や自衛隊の方など退職が早い方、55歳程度の方には乗務員という選択肢もあるという案内をしている。公共交通のPRの場があれば、乗務員という選択肢を見つけやすくするような取り組みも一緒にやっていければと考えている。

また、12月に運賃改定をさせていただき、乗務員の待遇改善をしている。想定よりお客様の減少は低く抑えられている。運賃の話も資料にあったが、案外運賃は高くないと感じられる方も多くありがたい。こういう知見を得られて、ほとんど苦情もなく、地域の理解は進んでいると感じた。

(会長)

これからは乗務員確保という話が必要になってくる。先ほどの消防の方などの話は役所の範疇で連携しやすくヒントになる。まだまだ連携するところがある。

(オブザーバー)

今年4月から自転車の乗車時のヘルメットの着用が全年齢努力義務になり、県は着用率が全国でワースト7位という状況で、県としてもヘルメットの購入を応援する事業を展開している。対象は記載のように、1歳から18歳の子どもとその親どちらか一方、大学生、専門学生、65歳以上の高齢者を対象に申請いただくと最大4,000円相当のキャッシュレス決済ポイントか、QUOカードを給付。申請期限2月上旬まで受け付けているので、この機会にご利用いただけたらと思う。

(委員)

ヘルメットの件で補足させていただくと、高齢者の方を対象に、スマートフォンでの申請支援を播磨町でも行っており、2月9日まで役場の1階ロビーに特設会場を設けている。委員の皆様の周りに、申請に際してお困りの方がいらっしゃれば、お声をかけていただきたい。

もう1点、1月28日に新島でロードレース大会を開催する。神姫バス様様に運行をストップしていただいたり、駅にポスターを貼らせていただいたりご協力いただいている。いろいろな企業にも協賛いただいております、遠方から公共交通機関を使って播磨町に来てもらえるイベントなので、皆様も足を運んでいただければと思う。

(会長)

最後に1点だけ、これから冊子になるので見やすくしていただければと思うが、行政が出す刊行物と

してはユニバーサルデザイン化がされていないので、色の使い方や文字の大きさ、構成を確認していただきたい。

それでは本日予定した議事は以上である。司会を事務局にお返しする。

5. 閉会

(事務局)

公共交通の計画に限ったことではないが、住民の方に正しくご理解いただくというのがまずは大切。播磨町の公共交通の状況や事業者の実情を正しく住民の方にご理解いただき、今後どうしていくのかを住民含めてみんなで考えていけるきっかけになるよう進めたい。

本日の会議の議事については概要を取りまとめ、皆様にご確認いただき、HPで公開する。また、パブリックコメントを2月1日から22日の間、役場の庁舎や各公共施設で資料を閲覧いただき決定する。

次回は3月21日(木)10時から、中央公民館2階視聴覚室で行う。

以上をもって、令和5年度第3回地域公共交通活性化協議会を閉会する。

以上